



菅原拓男先生 瑞宝中綬章叙勲祝賀会

日時：令和5年9月23日（土）午後2時より

会場：秋田キャッスルホテル
（秋田市中通一丁目3番5号）
<https://www.castle-hotel.jp/>



祝賀会次第

1. 受賞のお祝い

2. 特別講演

(1) 「収支から考える環境と健康」

東京工業大学 名誉教授 丹治 保典 氏

(2) 「カーボンニュートラルに向けて ^{いち}一石油企業の取り組み」

富士石油株式会社 常務執行役員 川畑 尚之 氏

(3) 「持続可能なあきた」

秋田県議会議員 武内 伸文 氏

3. 懇談会

参加費：10,000円程度

県内受章者 喜びの声

秋田大で約40年、工業品の製造技術を支える化学工学分野の研究に情熱を傾けた。「石炭や光など扱う対象が幅広いのが面白い。それ故に研究は一人ではできない。受章は共にまい進した仲間のおかげ」と喜ぶ。

本荘町（現由利本荘市）生まれ。本荘高を経て秋田大鉱山学部（現理工学部）を卒業後、東北大学院博士課程を修了。同大工学部の助手として1年間勤務し、秋田大の恩師の紹介で1971年に同大鉱山学部へ赴任した。

当時は半導体の需要が急速に高まっていたが、製造工程に不可欠な、不純物を除いた「超純水」を大量生産する技術がなかった。そこで紫外線を照射して水中の細菌を除去する技術に着目。効率的に殺菌できる紫外線の強さや水流

瑞宝中綬章・教育研究功労 菅原拓男さん(80) 秋田市

産業支える分野で尽力

の速さなどを導き出した。この方法を基に開発された浄水装置は、今や世界中の半導体製造の現場で採用されている。

環境保全対策にも貢献。東北大で石炭・重油燃焼ボイラーの排煙から亜硫酸ガスを吸収する装置を研究した経験から、秋田大ではガスの基となる硫黄を石炭から除去する手法の改善に取り組んだ。環境問題のアドバイザーとして、旧能代産業廃棄物処理センタ

（能代市）の県環境保全対策部会長も務めた。現在は秋田市環境審議会会長などに就く。

後輩研究者らとの親交は今も続く。「新たな発見があっても、安定生産する技術がなければ世の中は変わらない。化学工学は裏方的な存在だが、社会基盤を支える大切な役割を担う。後進がどんな世界を切り開いていくか楽しみ」と期待した。

（川村巴）



「大変な研究も好きだからこそ続けられた」と話す菅原さん＝秋田市手形田中の自宅